

## 我が家にやって来た交換留学生ペドロ君

水戸南R C 奈良早苗

水戸南ロータリークラブでは、昨年6月に、交換留学生としてブラジル国籍のペドロ・ラパッチ・ロルカ君(16歳)をお引き受けいたしました。10ヶ月の滞在期間のうち、最後の4ヶ月間を奈良の家でお預かりいたしました雑感を、ここに書き止めてみました。

来日寸前の手違いで宙に浮いていたペドロ君の行方は、当クラブで引き受けることになったものの、彼は日本語の勉強も全く出来ずにいたそうで、最初にお引き受けになった平山会員のお宅は大変なご苦勞をされたと思います。それを思うと、私達夫婦は何と楽だったことか。生活習慣の全く違う国から、16歳の男の子が“何を感じて、何を学んで行くのか”私にとっては非常に興味深いものがありました。どういう風に係わっていったら良いかと思案もしましたが、自然体で接することがお互いに楽だろうと判断し、子供のいない私達夫婦に俄か子供が出来ました。

主人に作っていた弁当箱がペドロ君に。これまた楽しいものです。夫の行く美容室でカットし、その足で袋田の滝見物。土浦の花火、日光東照宮、シルク・ドゥ・ソレイユ、足利のワイナリー・ココファームと、スケジュールの許す限り、ありとあらゆる所に出向きました。我が家でのサマージャズコンサート、陶芸家と花のコラボレッスン、バーベキュー、クリスマスパーティー。日本でこの正月は私の実家で、日本の伝統的な正月風景に浸り、神社参り。

数えたらきりのない思い出が蘇って参ります。ペドロ君の成長は目を見張るものがありました。たった数ヶ月で日本語検定3級を何とパスしてしまったのです。このことにご尽力を尽くされたボランティア教師辻村先生のお陰だと深く感謝をしておりました。

ペドロ君の優秀さは、様々な所に発揮されました。我が家のピアノを一度聞いたら同じに弾いてしまうし、ブラジルではパソコンも作ってしまったとか。どうやらお父様譲りのIQ(アインシュタイン同様)の持ち主のようです。自画自賛ですが、私の所の生徒さんたちが、快くペドロ君にお付き合いして下さったことが、彼の日本語を上達させた要因の一つになっている、と辻村先生がおっしゃっていました。また、ペドロ君に“将来何になるの”と質問すると、弁護士か裁判官だと言っていました。

日本とブラジルの国民性の違い、政治の違い、文化・習慣の違いをお互いにじっくり話し合った4ヶ月。凝縮された時間の中に、私達は16歳のペドロ君から、多くのことを学びました。日本人がすっかり忘れてしまっていたものが、ペドロ君によって再認識させられた次第です。

いよいよ帰国の前日、水戸南ロータリークラブのメンバーが、ペドロ君の送別会を開いてくださいました。上手になった日本語で、ひと言ひと言でいねいにRCのメンバーに感謝の気持ちを述べ、私達は目頭が熱くなりました。私はペドロ君に内緒で、密かに思い出深い写真を一冊のアルバムにし、赤い大きなリボンをかけてプレゼントしました。

帰国後、猛勉強の末、飛び級でサンパウロ大学の法学部にめでたく合格したとの報告があり、感慨もひとしおです。私達夫婦は、夫の定年退職を迎えたら、是非ペドロ君に会いに行こうと思っています。たった4ヶ月でしたが、貴重な体験をさせて頂きました水戸南ロータリークラブに感謝申し上げます。